
異端の抹殺者

ロン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

異端の抹殺者

【Nコード】

N1999Z

【作者名】

ロン

【あらすじ】

吸血鬼や超能力者の存在が公になるのを防ぐ為、その存在を抹殺し揉み消す組織——通称SAEOに雇われの身である八雲井直樹はその日も標的抹殺に赴くが…

高級住宅や高層ビルが軒を連ねる或華菜町。

様々な欲望が渦巻くこの町の中に一際目立つ真黒なビルが聳え立っている。

ビルの入口には屈強なSP達が嚴重に警備し、他を寄せ付けない雰囲気放っている。

だが人混みの中から1人の若い男が現れビルへと歩み寄ると、SP達は左右に別れ道を開けた。

常に無表情なこの男は黒髪で目が隠れており、スーツの上にコートを羽織っている。

男はビルの中へ入り、僅か1m先にあるエレベーターに乗り36Fのボタンを押す。

穏やかな速度で36Fまで上昇したエレベーターは機械音と共に扉を開く。

男がエレベーターを降りた先には狭い一本道の通路のみで行き止まりには大きな扉があるのみとなっており、彼は冷たい足音を響かせながら徐に扉を開けて中へと足を踏み入れた。

扉を開けた先には奥行きのある広い空間にぼつりと置かれた来客用のソファアーに腰掛けた一人の少女がゆったりと紅茶を飲んでいる。

少女は赤い瞳をした金髪のポニーテールで、純白のワンピースを着ている。

彼女は入室した男を見るなり不敵な笑みを浮かべ手招きをした。

「私の姿に見惚れるのも構いませんが、早くこちらにお座りになられてくださるかしら？」

「…」

少女に促され男はソファアへと腰掛けた。

すると少女に紅茶を差し出されるが彼はそれに手を付ける事も無く唯紅茶を啜る彼女を見つめる。

いや、正確には彼女の方へと目を向けているだけで実際は遠い何処かを見つめている様だった。

紅茶を飲み終えた少女はティーカップを机の上に置き、机の上にあるファイルから徐に1枚の書類を男に渡す。

「これが今回の抹殺対象の煉谷海都、吸血鬼ですわ。まあ百戦錬磨の八雲井様には少し簡単過ぎるかも知れませんが。」

「…報酬は幾ら出す？吸血鬼は命の危険が伴う、もし足元を見る様な額を言えばお前の首を刎ねる…」

「フフ、あなた様に殺されるのなら本望ですわ？但し“殺せたら”ですけど。では先ず前払いで500万お支払いしましょう。もし抹殺に成功すればもう500万で如何でしょうか？」

「…それで構わない、明日必ずここに獲物の首を持って来よう…」

少女は金庫から札束を取り出し、男に渡す。

それを数え500万円ある事を確認した男は無言で扉を開けて出て行った。

ここは特殊能力抹殺組織——通称SAEO (Special Ability Erasure Organization) は超能力者や魔術師等、異端な存在を抹殺し社会的混乱を未然に防ぐ目的で日本政府により設立された。

SAEOは先程の少女、不死川美瑠麻しなずがわみるまのみが所属し全てのSAEOに関わる情報を支配・管理している。

そして男の名は八雲井直樹やくもいなおき、暗殺者としての腕を買われ美瑠麻と契

約を結び日々異端者を抹殺している。

今回の八雲井の標的である煉谷海都とは都内の蒼林高校に通う一見何処にでもいる高校生だが、夜な夜な外出しては若い女性を襲い生き血を吸っている。

吸血鬼——それは元々人間であつた者達が突然変異により異形な存在へと変貌した生物である。

吸血鬼と呼ばれる者達は遥か以前は言い伝え通り陽の光を弱点としていたが、長い年月を重ね人間と交配して行く内に耐性が生まれ克服をした。

彼等は人間を遥かに凌ぐ身体能力を持つが、それ故に毎日血液を搾取しなければ生きられない。

不死川から依頼を受けた翌日、八雲井は煉谷海都を抹殺する為に蒼林高校に赴く。

八雲井は校門から煉谷海都が出て来るのを待ち構えていると、同級生と思しき女子生徒と共に談笑しながら現れた。

そのまま何処かへ向かつて歩いて行く2人を八雲井は細心の注意を払いながら尾行していると、2人はカラオケボックスの前で歩みを止めた。

「愛美と一緒にカラオケ行くの久々だよな。」

「そーだっけ？とにかく入ろ入ろ！」

煉谷海都と仲睦まじく話す少女の名は栃原愛美、不死川が八雲井に渡した標的情報の書類の交友関係の欄に名前が記載されていた人物である。

2人はカラオケボックスの中へと姿を消し、それから約3時間後に満足した表情で2人がカラオケボックスから出て来た。

これから自分が殺される事も知らずに微笑んでいる煉谷海都を八雲井は哀れんだ瞳で眺めていると、2人は歩み始め彼は再び尾行を開始した。

この時外は陽が落ちて真っ暗になっており、煉谷海都はいつ栃原愛美を襲っても可笑しくは無い状況になっている。

2人は次第に人気の無い暗い道を歩いて行き、静寂な公園へと足を踏み入れブランコに座った。

「愛美：お前に聞きたい事があるんだけどYESかNOで答えてくれないか？」

「良いよ、早く言って？」

「あ、ああ。愛美はさ、その：俺の事――！そこにいるのは誰だ！？」

草陰から剣を携え首を刎ねる機会を窺っていた八雲井の殺気に感付いたのか、煉谷海都は真剣な面持ちで八雲井が潜む方へと声を荒げて叫んだ。

それに答える様に八雲井は煉谷海都の前に現れ刀身を彼に向けると、栃原愛美は涙目になり震えて煉谷海都の背中に抱き付いた。

煉谷海都はそんな彼女の頭を撫で耳元で何かを囁くと、彼女は頬を赤らめ頷いて彼から遠くへ離れた。

「：吸血鬼：お前を抹殺する：」

「お前何なんだよ？俺を何の為に狙う？」

「：語る必要は無い。俺はお前を殺し、お前は俺に殺されるだけだ：」

無情な言葉を吐き捨て、矢雲井は煉谷海都に斬り掛かる。
だが煉谷海都は人間技とは思え無い速さで矢雲井の背後に周り込み、
右足で彼を10m先まで蹴り飛ばした。
蹴り飛ばされた八雲井がむくりと立ち上がり辺りを見渡すが煉谷海
都の姿は何処にもいない。

ふと空を見上げると煉谷海都が遥か上空から握り拳を構えており、
八雲井が気付いた時には既に遅く力強く顔面を殴られた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1999z/>

異端の抹殺者

2011年12月7日08時46分発行